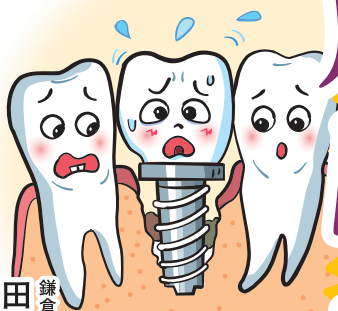


インプラント 周囲炎



鎌倉市歯科医師会
田中 俊充

皆様はインプラント周囲炎をご存知ですか。以前テレビ放送でインプラント周囲炎についての報道があり、その後多くの患者さんからの質問がありました。報道では、「インプラント治療後、放っている」と重大な事態に陥る可能性があり、注意が必要です。定期的な検診を行って「大丈夫」との内容でした。患者さんからは「重大な事態って何ですか?」「インプラント治療は良くないものですか?」「インプラント治療は危険なのですか?」などの質問が相次ぎ、テレビ報道の情報発信力はすごいものだな、と改めて感じました。そこで今回は、インプラント周囲炎についてももう少し詳しくお話したいと思います。

インプラント周囲炎とは?

インプラント治療は、歯をなくした部分にチタン製などの人工歯根を埋めこんで、噛み合わせを回復する治療法のことです。その埋めこんだインプラントの周囲が細菌感染し、炎症が起ることをインプラント周囲炎といいます。それに対し歯の周りが細菌感染し、炎症が起ることを歯周炎といいます。インプラント周囲炎も歯周炎も口腔内のほぼ同じ病原菌によって引き起こされます。

インプラント周囲炎になるとどうなるのですか?

これも歯周炎と同様ですが、インプラント周囲に付着した細菌から内毒素が体内に侵入

し、それが原因でインプラント周囲の骨を溶かします。怖いのは、これらの過程がほぼ自覚症状がないまま進行してしまつてことです。しかしながらインプラント周囲と歯牙周囲の組織構造の違いから、細菌感染してしまつてインプラント周囲炎の方が悪化しやすいと言われています。炎症が進行すれば、インプラントの脱落につながる可能性があります。

どうすればインプラント周囲炎にならないで済みますか?

日常においては、生活習慣と口腔清掃が重要になります。生活習慣においては、十分な睡眠をとる、偏食をせず規則正しい食生活を送ること、喫煙をしないことなどが大切です。また口腔清掃では、毎食後のブラッシングが理想的ですが、少なくとも就寝前のブラッシングは十分に行ってください。これにより免疫力が向上し、且つインプラント周囲の病原菌数を減らすことができます。また定期的な検診をすることも有効と思われます。インプラント周囲炎になつてしまつたらどうすればいいのですか?

インプラント周囲炎の

状況により、様々な治療法がありますが、基本的には主治医による患部の洗浄、クリーニング、抗菌剤の投与による治療が必要となります。

インプラント治療は違和感が少なく、自分の歯のように噛むことができるなど多くの利点があります。その反面むし歯にこそなりませんが自分の歯のように歯周病になるのです。日本では歯周病で歯を失う人が多く、厚生労働省が3年ごとに実施している「患者調査」の平成26年度調査によると、「歯肉炎及び歯周疾患」の総患者数(継続的な治療を受けていると推測される患者数)は、約331万5000人で、前回の調査よりも65万人以上増加しました。年齢別に見てみると、歯周病の有病率は、20歳代で約7割、30〜50歳代は約8割、60歳代は約9割だといわれています。(日本生活習慣病予防協会より引用) インプラントだから特別気をつけなければならないというわけではなく、日々のブラッシングをきちんとし、生活習慣を整え、早期発見、早期治療に努めることが重要です。自分の歯が一番であり、それを失つことの方が、重大な事態であると思います。

(田中 俊充 鎌倉)